

CCC による 遠隔監視・制御システムのご提案



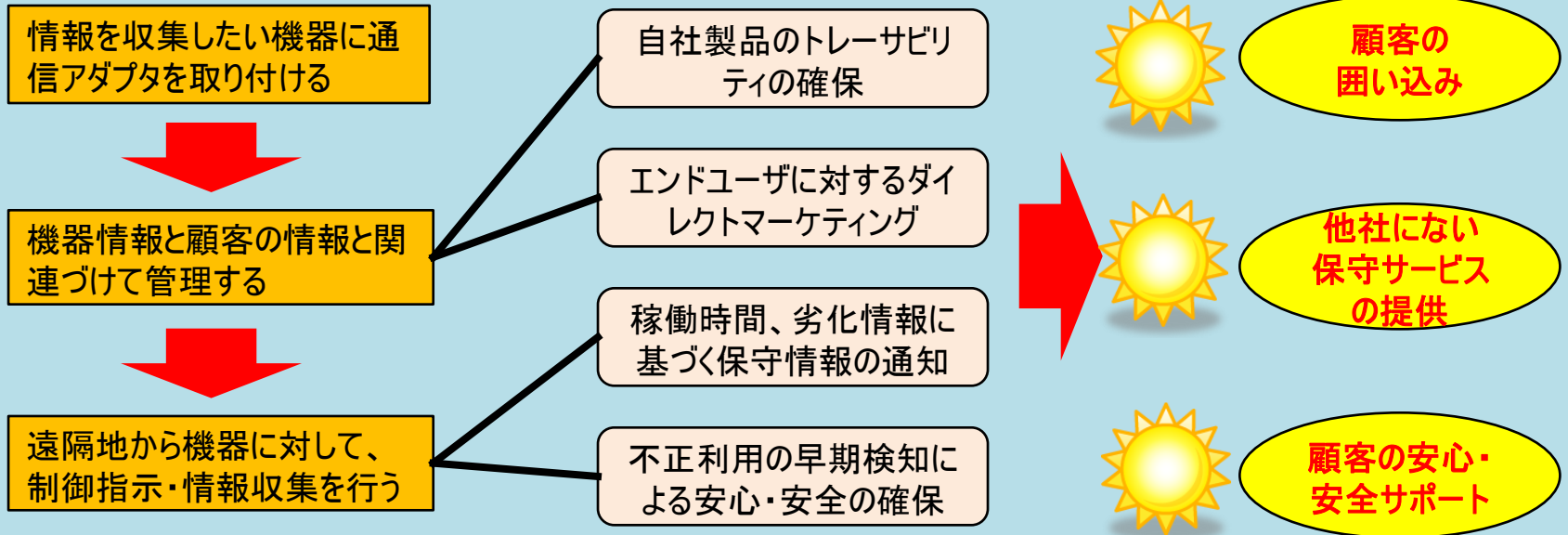
提案要旨

提案概要	CCCシステムを導入し、機器の遠隔・監視制御を行う
目的	<ul style="list-style-type: none"> ①顧客情報をきちんと管理し、販売促進・顧客満足度向上に活用する ②機器情報を自動収集し、保守サービスの高付加価値化を図る ③不正利用の早期検出により、利用者の安心・安全を確保する
投資額	個別調整

システム内容と導入効果

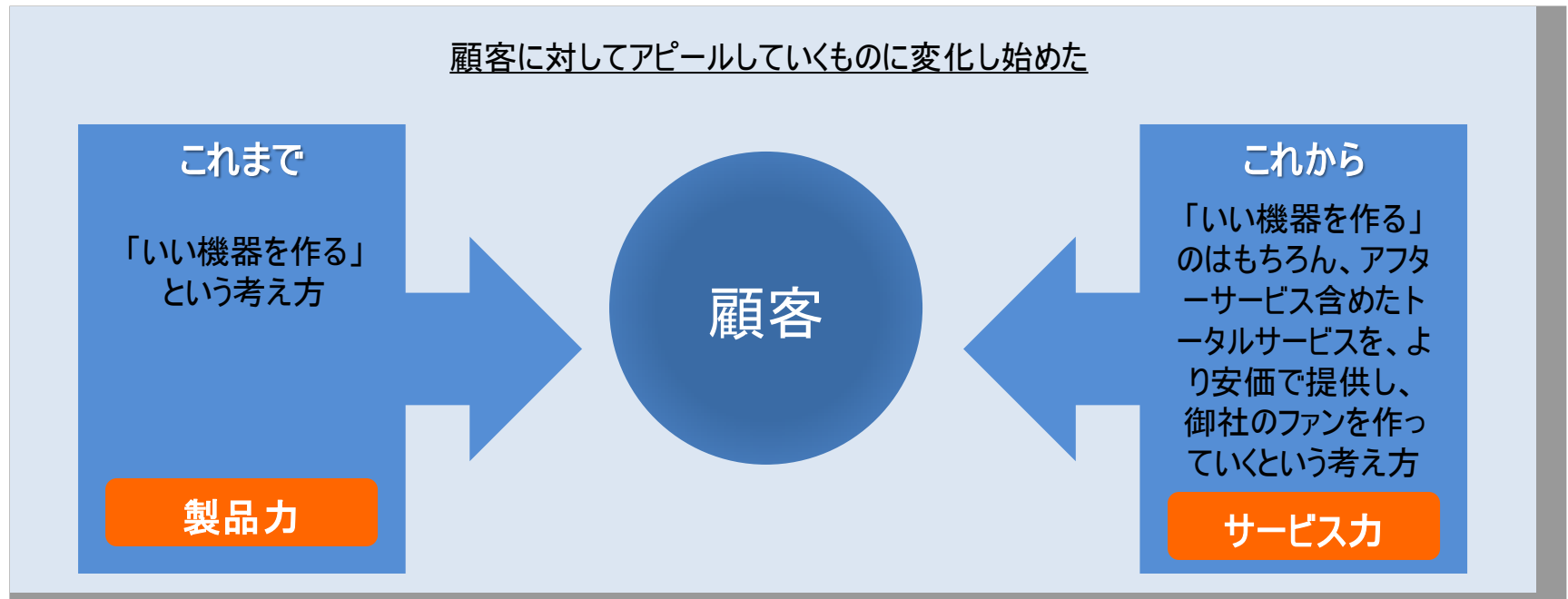
必要なこと

できるようになること



遠隔監視制御システムが求められる背景

- 整備機器業界は、海外企業の参入などの競争激化に伴い、新規顧客獲得の困難化、顧客あたりの販売価格の減少傾向が進みつつあります。
- そのような中で『自動車整備用リフトのパイオニア』として、確かな技術と品質で大きな信頼と実績をあげられている御社ですが、更なる競争力強化のため、攻め(顧客満足度向上による囲い込み)、守り(保守コストの削減)が重要になっています。
- 今回、攻め、守りの両方を同時に実現する手段として、CCCを使った遠隔監視制御システムの導入を提案させていただきます。



遠隔監視・制御システムとは？

- 遠隔監視制御システムとは、離れたところにある機器の状態を監視・観測したり、機器に対する制御指示を送出することを可能にするシステムです。

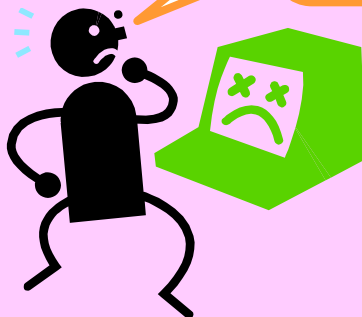
身近にある遠隔監視制御システムの例

- ①自動販売機の在庫・つり銭管理
- ②ガス・水道の自動検針
- ③駐車情報の空車情報



- わざわざ現場に出向かなくても情報を収集したり、制御できるため、古くから様々なシステムが稼働していますが、特定のハードを対象としたものがほとんどでした。（＝対応機器を増やす毎に投資がかさむ）

確かに便利だが、莫大な開発費用がかかる。相当数の機器を監視しないとメリットが少ない。



問題点

CCCシステムを使えば、そこは大丈夫!!
詳細は次ページで説明します。



解決策

なぜCCCシステムなのか？

回答1

CCCシステムを利用することにより、**短期間、低コスト**でお客様製品に**遠隔監視、遠隔制御、自動情報収集の仕組みを組み込む**ことができます。



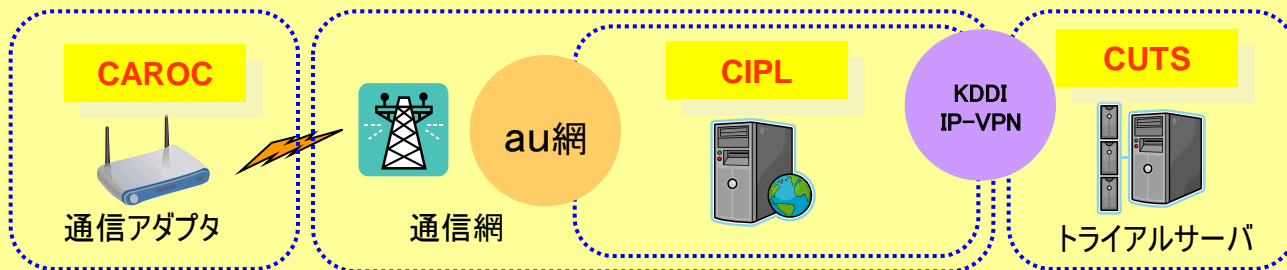
トライアル期間に使えるトライアルシステムが用意されているので、導入が簡単。トライアルシステムには、機器ごとの差異をサーバロジックで吸収する仕組みが実装済みなので、少しのカスタマイズで動作させることができます。
※商用利用時には、自社システムの構築、もしくは商用サービスへの移行が必要です。

回答2

CCCシステムを利用することにより、商社(卸)、エンドユーザといった**組織と機器を関連づけ**たうえで、従来商社任せであった**エンドユーザ情報を直接管理**できるからです。

(参考) CCCシステムとは

御社の製品を監視制御するシステムを構築するためのトータルソリューションサービスであり、通信アダプタ(CAROC)、セキュアな通信回線(CIPL)、制御や収集した情報を参照するためのトライアルシステム(CUTS)から構成されています。



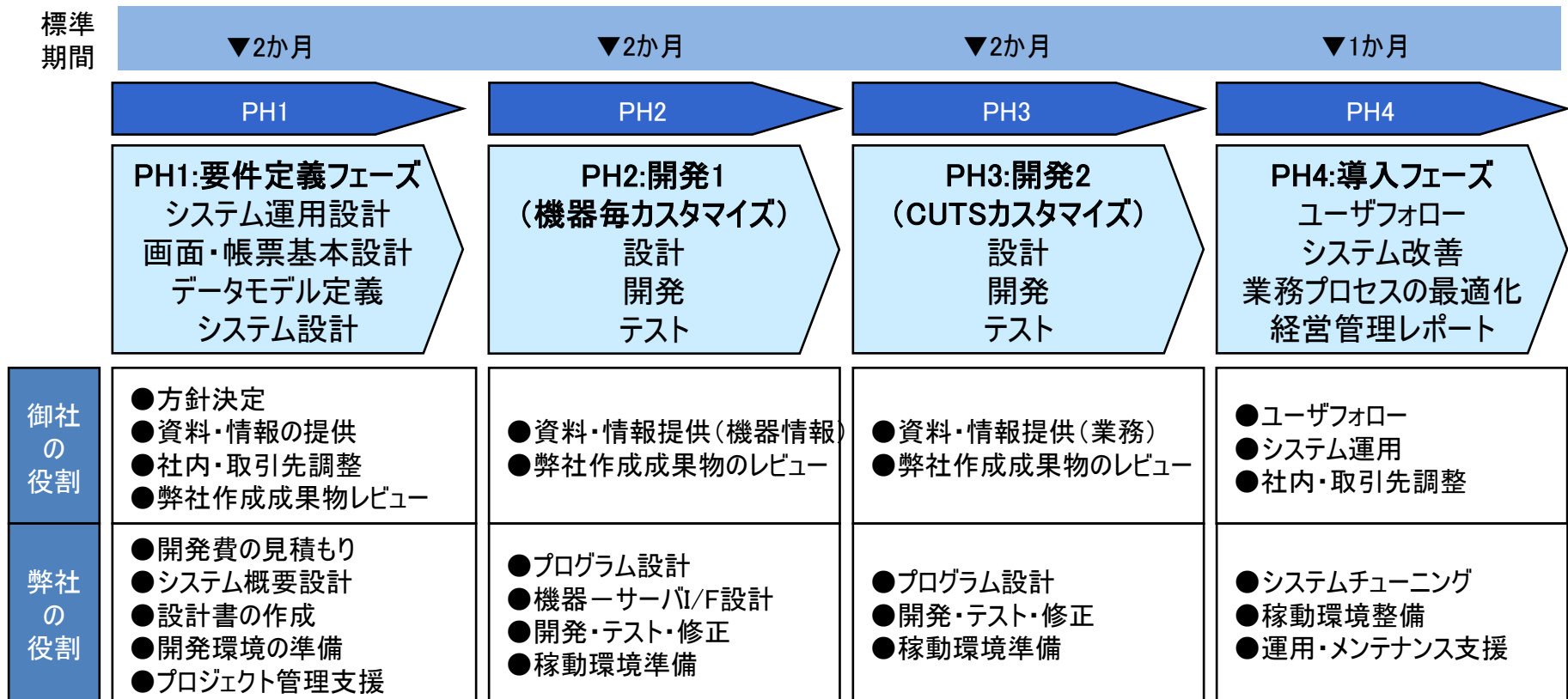
御社の問題点と解決方法

- 過去の打ち合わせでお聞きした問題点ならびにその解決方法を下記に整理します。

問題点	解決方法
<p>エンドユーザの情報が管理されておらず、情報提供やアフターフォローが行えない。</p> <p>エンドユーザとの関係性が薄く、必要なマーケティング情報が収集できない。</p>	<p>① エンドユーザの情報を自社で保有したうえで、保有する情報を使って商品の売買から保守サービス、問い合わせやクレームへの対応など、個々の顧客とのやり取りを一貫して管理する。</p>
<p>機器情報の収集に設置場所まで出向く必要があり、作業効率が悪い。</p> <p>壊れてからの修理するという受身的な保守になっており、予防保全が実現できない。</p> <p>仕様に反した使い方をされるなどエンドユーザ責による事故が発生している。</p>	<p>② 遠隔監視、制御するための仕組みを機器に埋め込んだうえで、一定間隔で故障診断を実施したり、利用状況や摩耗状況など不具合を早期に検出するための情報、スペックを超える利用を検出するための情報を収集する。</p>
<p>地震などの緊急時に対する特別な対応を顧客に要請されているが未対応である。</p>	<p>③ 緊急地震速報受信時に動作させる安全シーケンスを機器に組み込む。</p>

CCCシステムを使った遠隔監視制御システムの導入で、上記の問題点を解決することができます!!

- CCC開発プロセスにおけるシステム稼働までの流れを以下に示します。詳細な進め方については、御社の開発スケジュールに合わせて策定します。
- PH2 とPH3の開発フェーズについては、管理工数削減のため、並行して実施する方が得策です。（正味開発期間は、開発着手から5カ月程度とお考え下さい。）



開発対象システムのイメージ

